

排熱を農業に 万博で発信

盛岡市手代森の東日本機電開発（水戸谷剛代表取締役）は来月、大阪・関西万博のプログラム「共創チャレンジ」に出展する。温泉などの排熱を蓄熱材で農家に配送する同社の「地域熱エネルギー循環構想」を紹介し、世界各国の人々に環境に配慮した新たなエネルギー活用手法を提示する。水戸谷代表取締役（54）は「万博という夢のある場所で、世界に向けて自社の挑戦をアピールしたい」と意気込む。

東日本機電開発は、9月8 産業技術総合研究所（茨城県日に出展する。共創チャレンジ つくば市）が開発した蓄熱材ジは、万博テーマの「いのち」「ハスクレイ」を使った実証輝く未来社会のデザイン」の実験の概要や成果を説明する。実現に向けて企業や団体が取る。

2022年から2年間、盛岡市で行った実験は、盛岡つなぎ温泉の排熱をハスクレイ（西和賀町）が6月に参加した。

水戸谷代表取締役や企画開発部門の河野裕一主任（49）ら計6人が万博会場に出向き、使用。107日間で、灯油消

盛岡・東日本機電開発

新活用法紹介へ

費量を計680リットル削減することができた。

事業化を目指しており、現在も一戸町でキノコ栽培関連施設の排熱をアスパラガスのビニールハウスで使う実験などを進めている。未利用エネルギーを地元で循環活用できれば、地域経済の活性化や持続的な成長につながる可能性があり、万博への参加を機に国内外への発信を図る。

水戸谷代表取締役は「先駆けの取り組みで、システムを構築できれば多くの地域で役立てることができる。万博という貴重な機会を通じて、多くの人に知ってもらいたい」と話す。



大阪・関西万博に出展する東日本機電開発の水戸谷剛代表取締役（左）と河野裕一主任。「世界の人々に自社の取り組みを知ってもらいたい」と意気込む